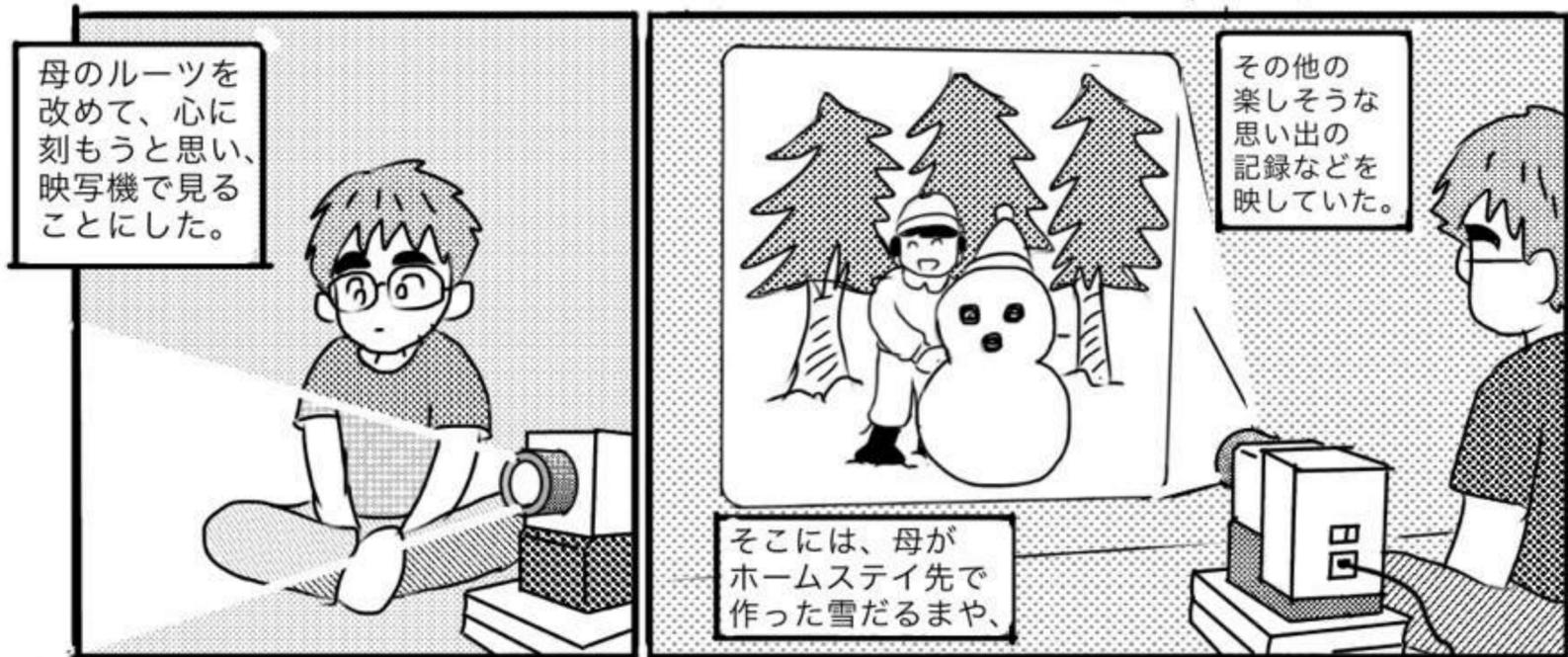


スキゾフレニックライフ

第4話 『母の半生（前編）』 / 古謝 哲也



僕の病気や人生に強い影響を与えた母親、なぜ母親があんなに強く厳しい人だったのか――





そこには、
母の青春時代が
多く映し出されて
いた。



それから、
今まで、母から
聞かされた
身の上話も
思い出しながら、

—自分の生きてる
意味を再び確認
する事も含めて、
ここで母親の物語、
人生を振り返り、
描いて行く。



昭和10年、
10月一

おぎゃー!

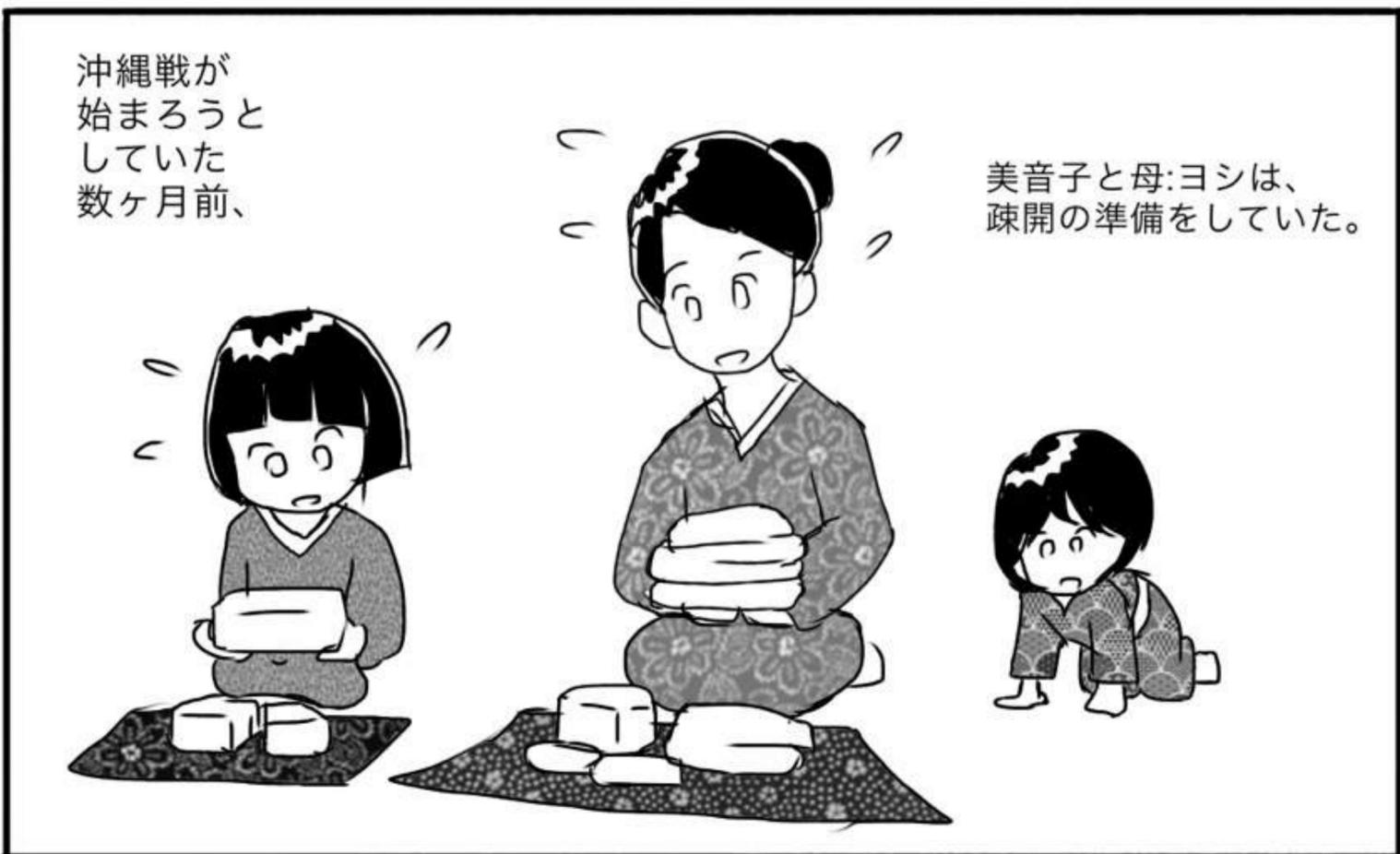
母:美音子が
生まれた。



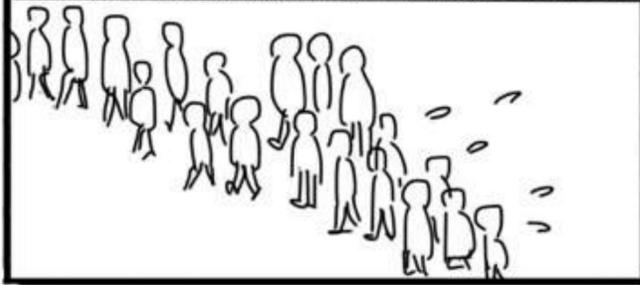
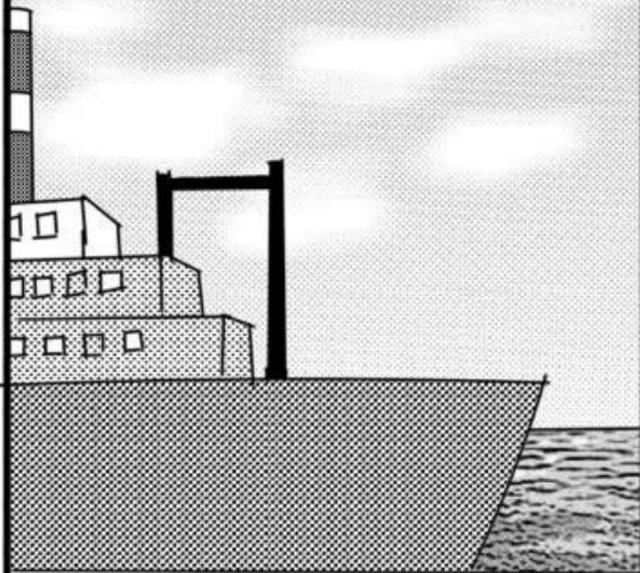
美音子の母 ヨシ
(ヨシは私の祖母)



幼少期は、
花を摘むのが
好きだった。



沖縄が戦場になる前に
たくさんの人達が
内地に行く船に
乗った。



荷作りをして、
準備を終え、



疎開船の
ある港へ
行こうと
したが、



和子はまだ小さい。
疎開先で2人の子を
みるのは大変だろう。

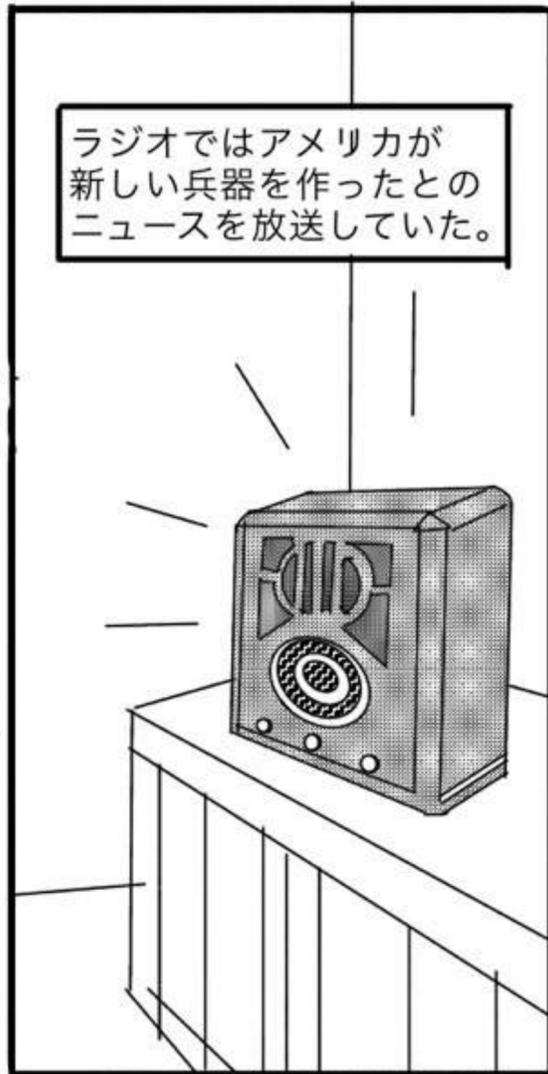
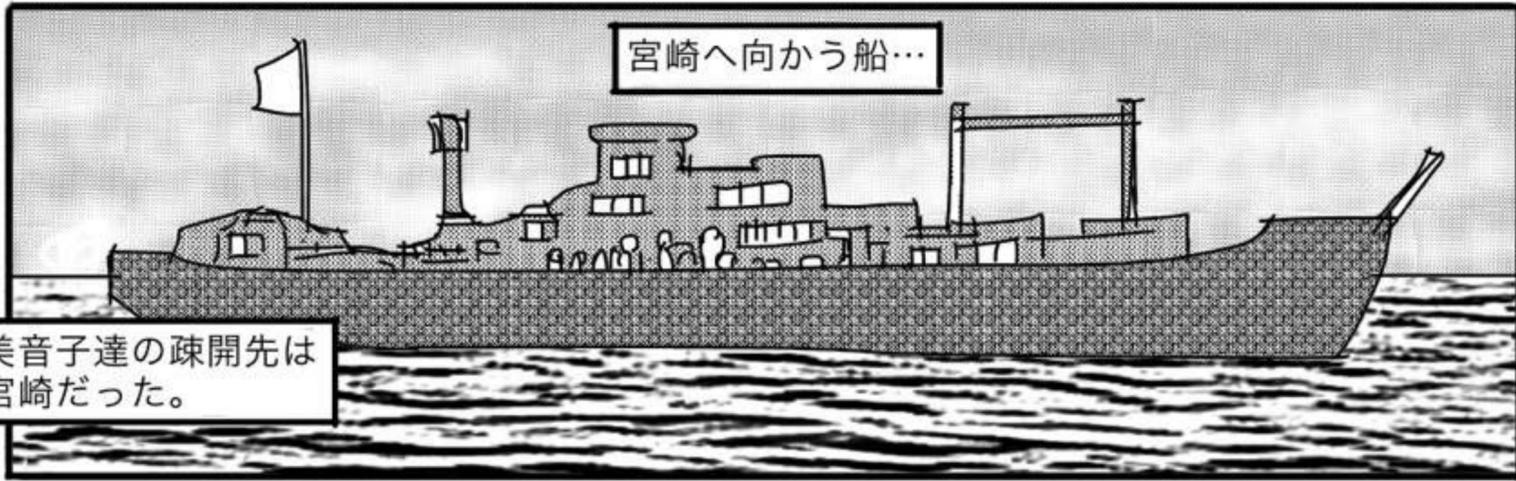


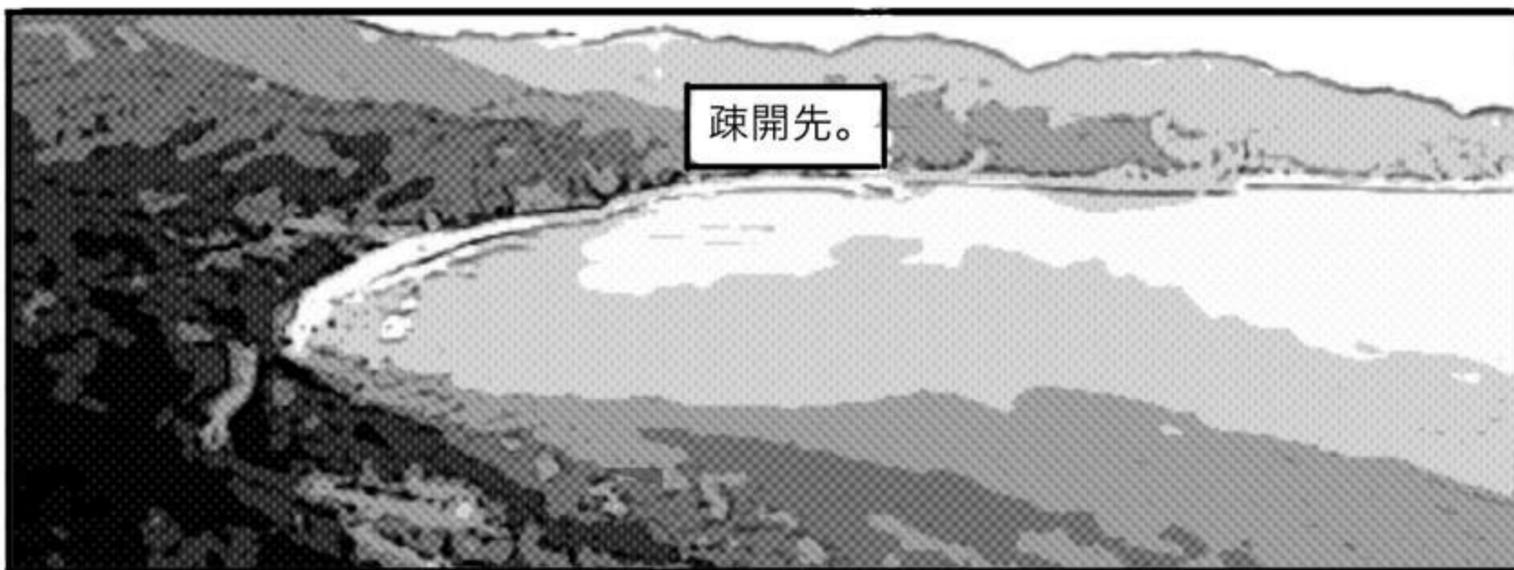
わしらが、
和子を守る！



今は、
あんたらだけ
内地に
行きなさい！







母から聞かされた
エピソード

他人（よその人）の
家に成っている
未熟のナスを、



友達とつまみ食い。

まだ熟する前の
ナスは甘かった
との事だった。



それが
教師に
バレた。

人様の家の
木に成った
ナスを盗んで
食べたそう
だな?!

ここは
職員室



その事で
学校に
連絡が
来たぞ!!

先生に
こっぴどく
怒られた。



君達は
ここで
毎日、

三度の
食事を
与えられて
るんだぞ!!



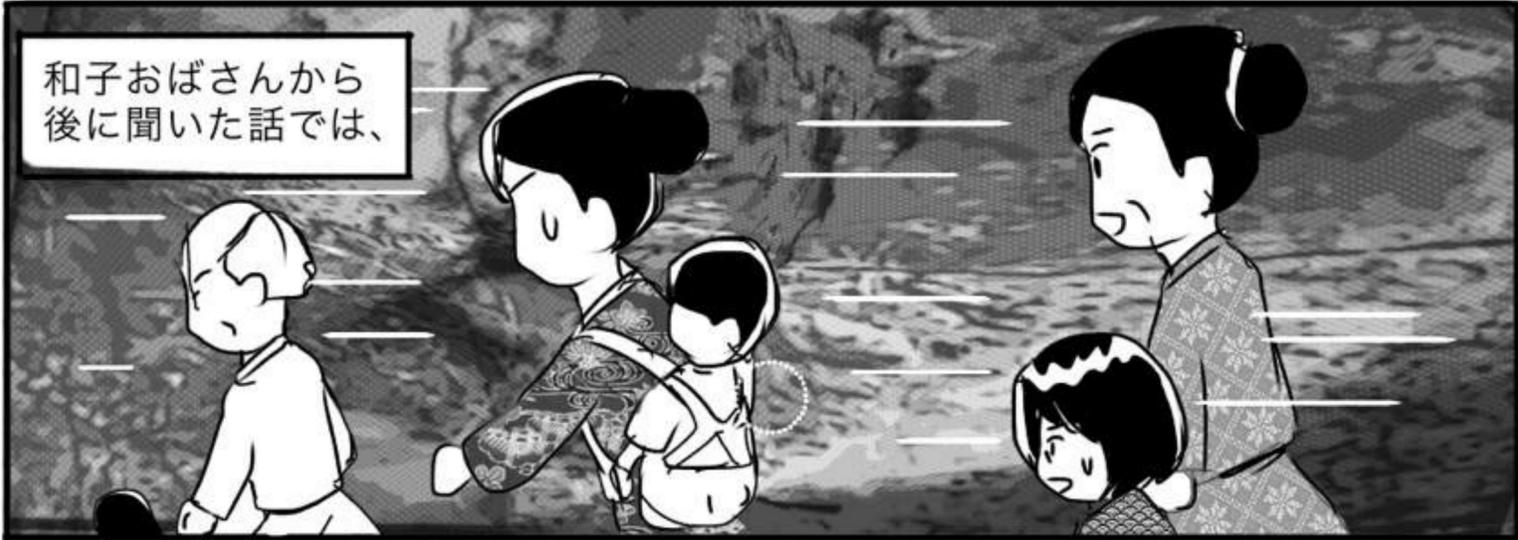
当時、疎開先では
朝食・昼食・夕食を
食べていて、食事に
困ることはなかった
との事。(母の話)



一方、
沖縄では…
米軍が上陸
して来た。

戦場で人々が
逃げ惑い、
和子も親戚と
一緒に逃げていて、

この時、
和子は
4歳。



和子おばさんから
後に聞いた話では、



ある母親が、
おんぶしている
子が銃弾に
当たって、



死んでいるのに
気付かず、
そのまま走って
逃げていたのを見たと
いう。



それは、
幼かった叔母に
とってトラウマ
になった。



疎開先では、

母:ヨシが、
そこで関係を
持った男性の子を
身ごもっていた。



ここにヨシさんが
出産できる場所はない!!
ここ(宮崎)を
出て行きなさい!!



母の
出産のため、
川崎の医院に
行く事を
勧められ、

ヨシと美音子は
川崎へ向かった。



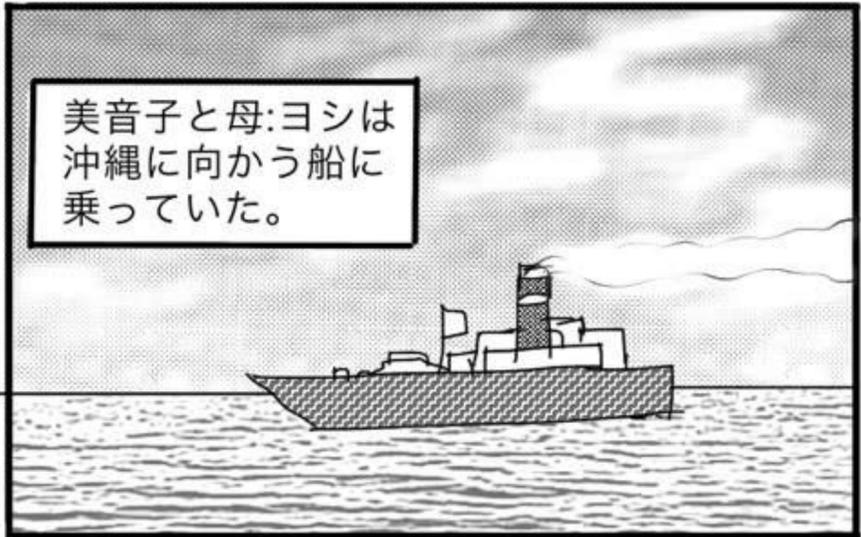
結局、母は、
川崎の助産院で
異父の長男を
出産した。

川崎での
疎開生活が
始まった。



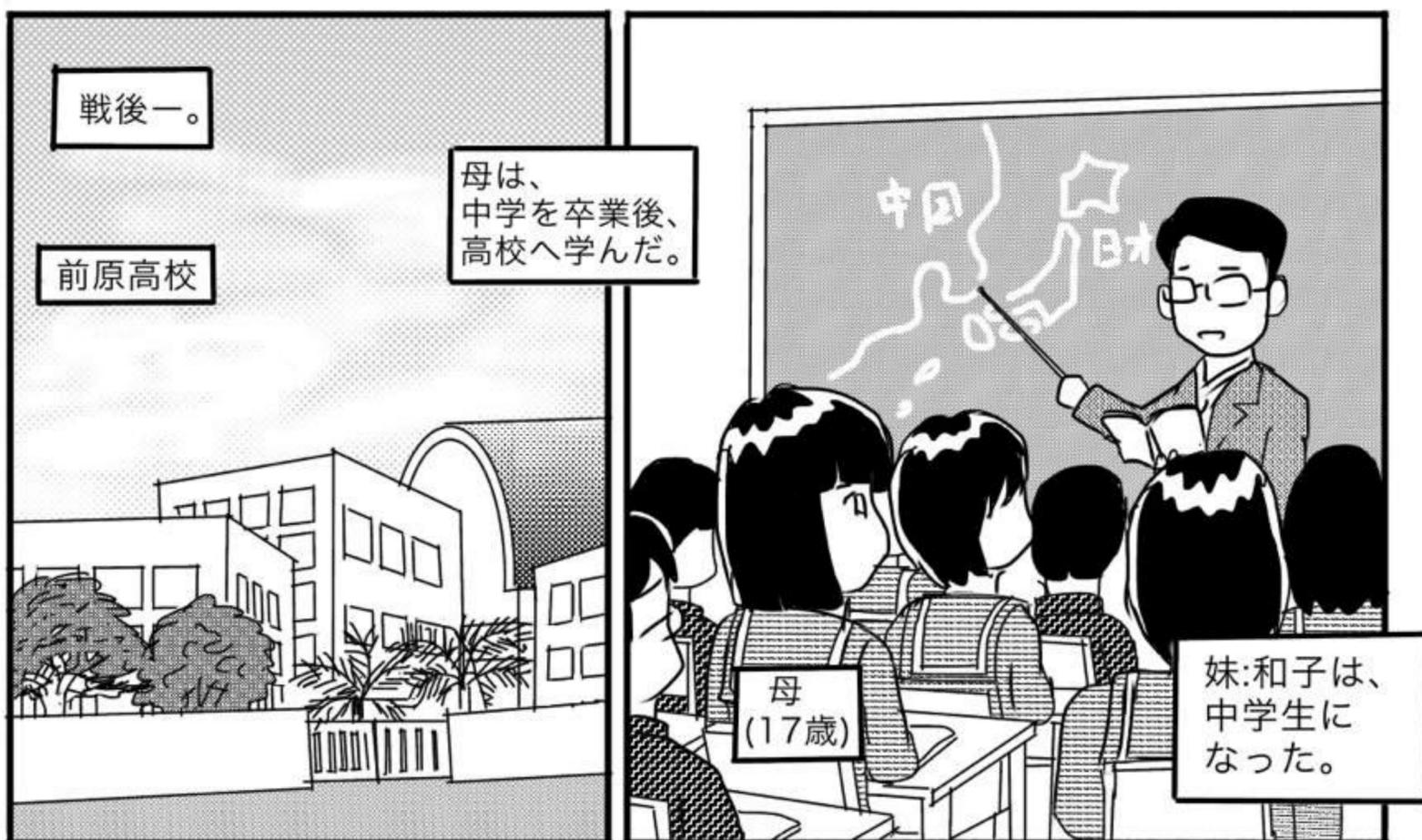
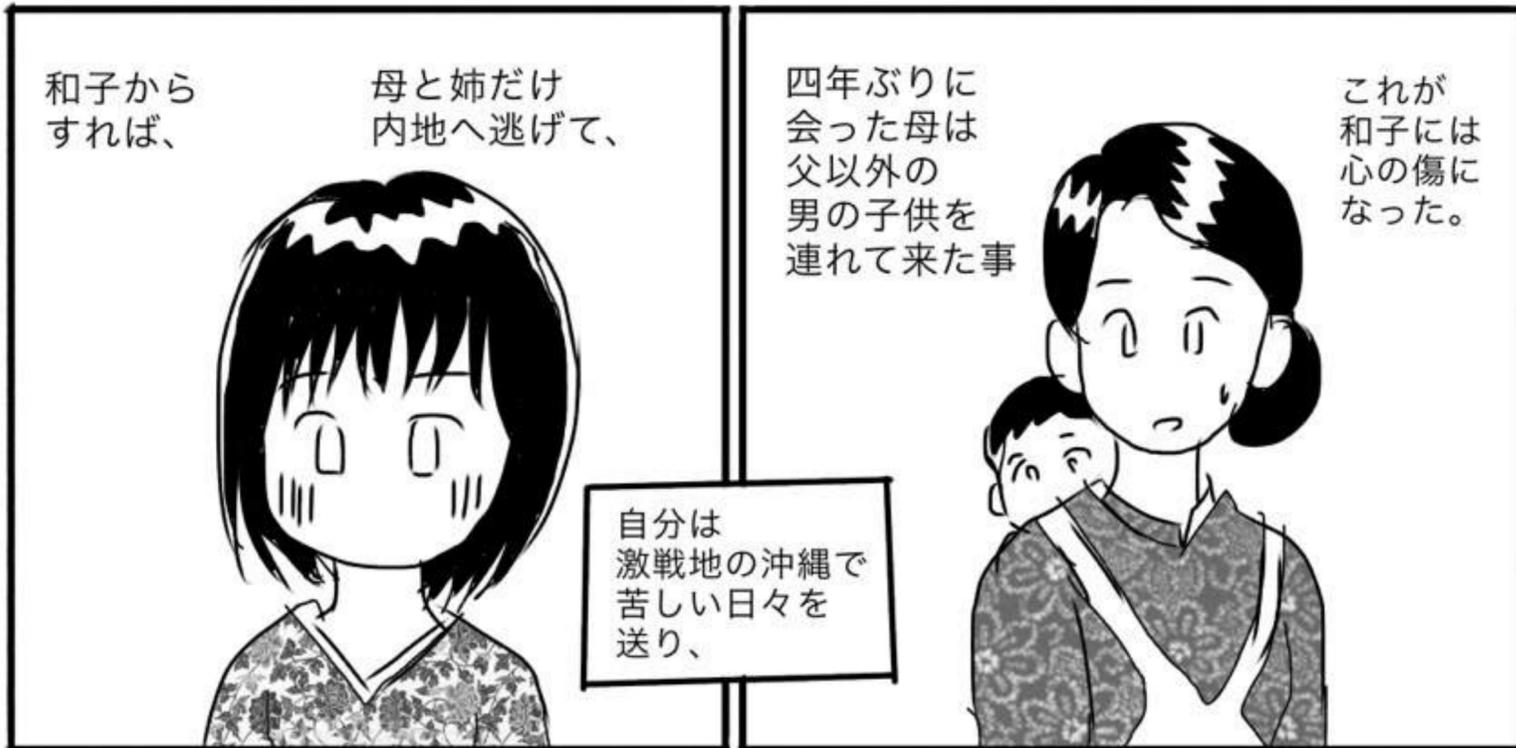
そこでの生活は
厳しかった。

昭和20年が
来ようと
していた。

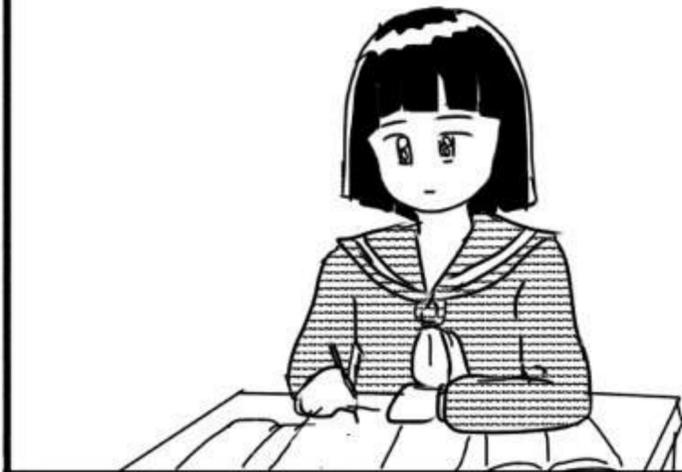


そして、沖縄に帰って来た。





優等生だった母。



その母の
得意科目は
英語だった。



高校から
帰ると、
祖父によく
言われた。



女は勉強
なんか
せんで
いいから

家を
手伝って
働け!!



…と、
祖父らに
厳しく
言われ、

砂糖キビ畑で
キビ刈りと収穫作業を
手伝い、



養豚場で
豚の世話を
したり。
餌をやったり。



草刈り作業や、



その他の
雑用を
しながら、

夜は
電球を付け、



勉強に励んだ。



その光を
頼りに、

また、
高校生ながらも
知人のツテで



米軍認可の
バーで
アルバイト
もした。



米兵相手に
英語も上手く
なって行く。



ここでは、
成人女性の
働き手たちは
米兵相手に
売春していたが、



あの子は高校生
だから、手は出さ
ないで下さいね。

それで、
米兵はママさんの
言った事を守った

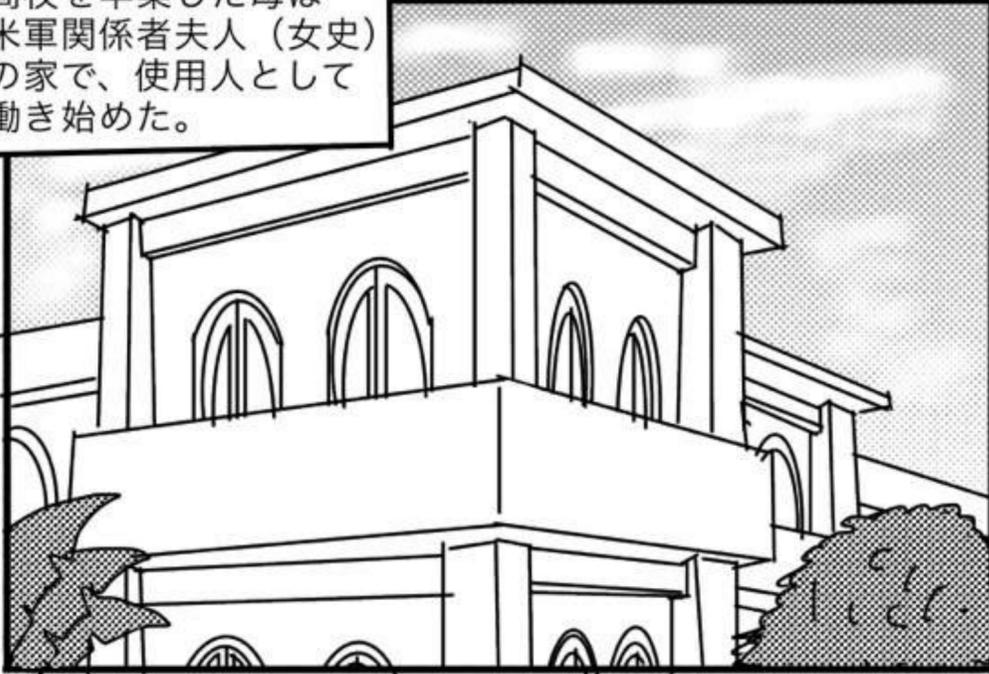


ただ、
ダンスの相手
をしていた。

英語のスキルも
上がっていった。

…と、店のママが、守ってくれた。

高校を卒業した母は
米軍関係者夫人（女史）
の家で、使用人として
働き始めた。



そこで、その人の元で
週一で働き始める。



始めは洋裁を中心に
仕事をしていたが、



洋裁以外の仕事も
するようになった。



ここでは、
五人の使用人が
働いていた。



雇用主の女史は
当時の沖縄の
有力者だった。





女史は米軍が発行する機関紙の編集・出版にも関わっていた。



女史は使用人達に英語を教えていたが、

その中で一番優秀なのは、美音子だった。



それで、女史に呼び出され、アメリカへの留学を勧められた。



しかし、この時代は沖縄からの米留学は容易ではなかった。



それでも、女史の熱心な後押しにより、

幾たびの審査や面接をパスして、

米留学を認可された。



家族・親族は、留学に反対したが、

.....



美音子はアメリカへ向かった。

妹:和子は数年後、入院する事になる...